

長期停滞下での地域金融の機能と中央銀行の役割

神戸大学 家森 信善 (パネル座長)

神戸大学 柴本 昌彦 (パネル副座長)

<パネル趣旨>

本パネルの目的は、日本経済の回復・再生を支える「要」としての地域金融の機能強化やそのために求められる中央銀行の役割について議論することである。議論をすすめるにあたり、日本の地域金融や中央銀行の役割について、理論的な枠組みに基づいて論点整理することが肝要である。そして、地域金融機関や中央銀行の現状を把握する必要がある。特に、地域金融機関は、低金利環境などにより経営環境が厳しさを増している中、地域経済の活性化支援、事業承継支援、デジタル化の加速、ESG やSDGs 対応の強化など、多岐にわたる金融サービスを提供することが求められている。一方、日本銀行は、金融システム安定のためのプルーデンス業務に加え、近年では地域金融機能を強化するための産業金融的な取組みも行っている。これらの現状に基づき、学会員の間で地域金融の機能や中央銀行の役割について理解を更新し共有しておくことは、学術的にも実務的にも重要である。

以上の問題意識のもと、本パネルでは、大学関係者、市場関係者、中央銀行それぞれの立場からパネリストにご登壇いただき、論題について討議する。ご登壇いただくのは、早稲田大学教授の小倉義明氏、名古屋商科大学ビジネススクール教授の大槻奈那氏、日本銀行金融機構局長の正木一博氏の3名である。

具体的な論点としては、例えば、(i) 低成長・低金利下において直面している地域金融の課題解決に向けて、今後どのような研究が求められているのか、(ii) 企業の新陳代謝を促すことや成長分野に資金を供給するには、地域金融機関はどういった工夫や取組みをすすめるべきなのか、(iii) 中央銀行は、地域金融機能強化を促すためにどのように貢献すべきなのか、といった論点が挙げられる。これらの論点も含め、ご報告やディスカッションを通じて、論題について理解を深めていきたい。

パネルの進め方は、

- ・報告パート 1 時間 (各パネリスト 20 分×3)、
- ・コメントパート 30 分 (各パネリスト 8 分×3+座長コメント)、
- ・ディスカッション 30 分

を予定している。